

2回戦

八戸学院光星

0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
2	0	0	0	0	1	0	0	0	X	3

星稜(石川)

(光) 洗平一住本
(星) 佐宗一能美

▷二塁打 三上▷犠打 住本、洗平、中谷、能美2▷盗塁 吉田(1)
▷失策 阿部▷暴投 洗平
▷試合時間 1時間49分

【評】八学光星が接戦を落とした。先発の洗平は初回、先頭打者に四球を与えるなど制球が不安定。安打3本を浴び、この回2点を失った。味方打線が三回に追い付いたが、六回に勝ち越し打を許し、これが決勝点となった。8回3失点と粘り強く投げるも、要所で失点を防げなかった。

打線は三回、四死球と安打などで2死満塁とし、山本の2点打で一時は追い付いた。その後も得点圏には走者を進めるものの、相手先発を攻略できず、あと一本が出なかった。

【光 星】	打	得	安	振	球	犠	盗	失	打	率	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
⑧	砂子	4	0	1	0	2	0	0	0	.222	見逃	三	左	飛	...	空	三	振	...	見逃
⑦	渡部	4	1	1	0	1	0	0	0	.111	三	飛	...	中	飛	...	二	ゴ	...	三
⑥	山本	4	0	1	0	2	0	0	0	.167	四	球	...	四	球	...	空	三	振	...
⑤	藤本	4	0	1	2	0	0	0	0	.286	三	飛	...	中	飛	...	右	飛	...	遊
④	小笠原	1	1	0	0	0	0	0	0	.500	...	空	三	振	...	中	飛	...	投	
③	阿部	0	0	0	0	0	0	0	0	.143	...	投	ゴ	...	中	飛	...	中	飛	
②	H	4	0	1	0	0	0	0	0	.333	...	死	球	...	二	ゴ	...	死	球	
①	R	1	0	1	0	0	0	0	0	1.000	中	
①	H	1	0	0	0	1	0	0	0	.000	中	
計		29	2	7	2	6	5	2	0	.238	見	

【星 稜】	打	得	安	振	球	犠	盗	失	打	率	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
⑥	吉田	3	1	1	0	0	1	0	1	.250	四	球	...	中	飛	...	二	飛	...
⑤	中谷	3	0	1	0	0	0	0	0	.167	三	飛	...	左	飛	...	中	飛	...
④	原部	4	1	1	1	1	0	0	0	.143	中	飛	...	中	飛	...	遊	飛	...
③	能美	4	0	1	0	0	0	0	0	.143	左	飛	...	右	飛	...	二	飛	...
②	海野	2	0	0	0	0	0	0	0	.250	見	逃	...	中	飛	...	中	飛	...
①	佐宗	3	0	0	0	0	0	0	0	.000	暴	投
計		30	3	7	3	6	1	3	1	.234

投	手	回	打	安	振	球	失	責	防	御	率
洗	平	8	34	10	7	6	1	3	3	2.12	
佐	宗	9	36	14	7	6	5	2	2	2.40	

光星秋の王者に屈す

仲井監督初回失点悔やむ



【2回戦・八学光星―星稜】4回八学光星無死、先頭の住本悠哉(右)が右前打を放ち、二塁を狙うもタッチアウトになる＝甲子園

「点差以上に力の差あった」

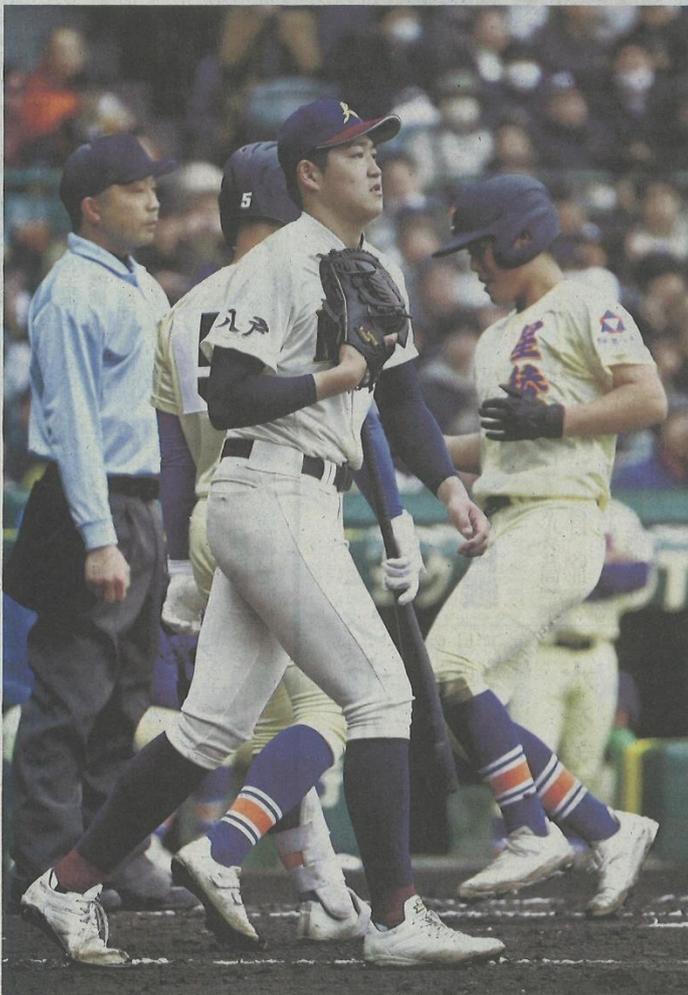
「試合の入り方が全て。投打全ての面で、星稜の方が上だった。2-3で競り負けた八学光星の仲井宗基監督は、点差以上に力の差があった」と吐露した。序盤の淡泊な攻撃や要所でのミス。明治神宮大会を制した秋の王者に、付け入る隙を多く与えたことが勝敗を分ける形となった。

ロッカールーム

が目立った。初回、出塁率の高さを買われたトップバッターの砂子田陽士が三振に倒れると、後続も四球による出塁を生かせずに攻撃はあっさり終了。一、二回に三つの内野フライを重ねるなど凡打が相次いだ。四回には、先頭の住本悠哉がライトへ安打を放ち、果敢に二塁を狙うもタッチアウトに。次打者に二塁打が飛び出しただけに、手痛いシーンの一つになった。5番佐藤凌は「低い打球を打ち、内野手を抜くという話をしてきたが…。飛球が多かったり、膝下の変化球を空振りしたりしてしまった」と肩を落とした。守備では、エース洗平比呂が先頭打者への四球で初回からピンチを招き、ロースコアの展開が見込まれた試合で重い2点を先取された。同点の6回には、外野から本塁への送球を捕手がこぼしてタッチし切れず、勝ち越しの生還を許した。「私の責任。全て野球が甘い」と仲井監督。ナインが浮き足立っていた序盤に、ベンチで奮起を促して立て直しを図ったが、地力のあるチームの前では一つのミスが命取りになった。「このレベルでは、上は目指せないと改めて感じた。もう一度、鍛え直したい」。甲子園の怖さを知る指揮官は時折、かすかに声を震わせながら、チーム力の底上げを見据えた。(桑田友人、千葉雄也)

洗平 初回の2点重く

8回粘投も悔しさにじませ



1回星稜1死二塁、中前適時打を浴びて先制を許した八学光星の洗平比呂(手前)

大会屈指の好左腕同士の投げ合い、導けず、「初回が全て。力を入れるとなつた一戦。八学光星の洗平比呂、ところで入れられなかつた」と悔しは8回3失点と粘投したが、初回に失った2点が試合展開を大きく左右した。エースとしてチームを勝利に

2日間の雨天順延もあり、開幕試合の関東第一(東京)戦から中6日。

疲労も抜け、万全な状態でマウンドへ向かったが、立ち上がり苦しんだ。一回、先頭打者にいきなり四球を与えると、犠打で二塁に進められ、

次打者には高めに浮いた直球をたたかれて先制された。この回は適時打をもう一本浴び、早々に相手へ主導権を渡してしまった。

三回に味方打線が追い付き、援護を受けた洗平はようやく本来の姿を取り戻す。「最初は変化球の割合が多かつたが、捉えられる場面があつたので途中から直球を増やした」と捕手の住本悠哉。冷静なリードで洗平の良さを引き出し、五回まではほぼ完璧に抑えた。

だが、迎えた六回。失点した初回と同様、先頭の出塁を許した。ここでも踏ん張り切れず、2死二塁から下位に左前へ運ばれ、勝ち越し打を浴びた。洗平は「先頭を出したところで(勝負が)決まっと思つ」と明暗を分けたシーンを振り返った。

「向かっていく気持ちが足りないようなピッチングだった」。試合後、仲井宗基監督はあえて厳しい言葉を並べ、洗平にエースとしての自覚を促した。1、2年の夏と合わせて甲子園のマウンドを3度経験した左腕だが、聖地を目指すチャンスは今夏が最後だ。

「この悔しさを忘れず、しっかり全員でまた(甲子園に)帰ってきたい」。背番号1は雪辱と成長を誓い、視線を上げた。(千葉達也)

山本 勝負強さ発揮



3回表八学光星2死満塁、山本が中前に同点の2点打を放つ。投手佐宗、捕手能美

○：「みんながつないでくれたので、絶対に打つてやろうと思った。二回2死満塁で同点に追い付く中前2盗塁打を放つ山本大。4番としての勝負強さを見せたものの、勝利に結び付けられず、試合後の表情に明るさはなかった。

2塁目の「囚番りの真ん中の真球」を目撃にはじ返し、一盗塁を破った。初戦でも同点のきっかけをつくれたスラッガーは「狙い球だった。怖くずに自分の打撃ができた。

一方、山本が最後のエース佐宗から放った安打はこの1本のみ。チームとしても満塁圏で2打が出ず、大会屈指の好投手を打ち崩すまでには至らなかった。

山本は「(佐宗)比呂が粘ってくれていたんで、全員で助けようと思っていたがうまくいかなかった」と悔しさを見せ、「(得点圏で)もう一本を打てるようにならないければ、『打の光星』と呼ばれない」と厳しい口調で語った。

新チームとなり仲井宗隆監督からお前の打撃は変えな」と言われたという山本。「レギュラーもある。でも、それを乗り越えなければ勝ち続けられない」。強豪校の4番に座る主砲は、夏を同搭えてリベンジを誓った。

「絶対に打つてやろう」3回に同点打



9回八学光星2死一塁、代走の岡本大地(右)が盗塁に失敗。ゲームセット

代走岡本大「実力不足」盗塁失敗に反省しきり

○：八学光星は1点を追う九回、1死から代打寺澤海音が中前打で出塁すると、仲井宗隆監督は十分な足のスペシャリスト岡本大地を代走へ送った。

力投を継いだ先発寺澤比呂に代わって送り込まれた次打者の萩原大は見逃し三振に倒れての死。

「盗塁のサインが来る」。続く一番砂子由陽士への2球目にスタートを切った岡本は、一塁まで直線に加速。しかし盗塁は失敗に終わり、無念のゲームセットとなった。

岡本は「ちよつと遅れた感じはあった。実力不足」と反省しきりだった。



4回八学光星1死、三上祥司が左翼フェンス直撃の二塁打を放つ

7番・三上(青森市出身)

光星打線で唯一の長打

○…今大会、八学光星打線で唯一の長打を記録した7番打者の三上祥司(青森市出身)。得点に結び付かなかったが、あわや本塁打の二塁打を放ち、「(相手の先発投手に)インコースを突かれていたので、押し負けないようにしようと思っていた」と振り返った。
 2-2で迎えた四回1死。内角の直球を鋭く振り抜くと、打球は左翼フェンス直撃の二塁打となった。
 後がない九回には先頭で打席へ。内野安打を狙い、気迫のヘッドスライディングで一塁に飛び込んだが、惜しくもアウトになった。
 夏に向け、「勝負どころでの一打がチームとして少なかった。取れる点数を確実に取れるようにしたい」とレールアップを誓った。

内角直球 鋭く振り抜く

子どもたち

八学光星ナインに声援を送る「山田池ファイターズ」の子どもたち



「次こそ光星らしい野球を」
 アルプススタンド
 最後まで熱い声援

「憧れの存在だ」「夏こそ光星らしい野球を」。1点差を争う好ゲームとなった星稜との2回戦。一塁側アルプススタンドには、八学光星の硬式野球部や吹奏楽部の部員約110人をはじめ、多くの応援団が陣取った。敗れはしたが、最後まで諦めずに戦う光星ナインを応援で後押しした。三回に2点適時打を放った。

山本とメッセージのやりとりをしたという藤森君は一約束通り打つてくれた。本立にかっこいいと感動した様子。「自分も光星で野球がしたい」と先輩の一振りに刺激を受けていた。
 攻撃時の応援をもり立てたのは吹奏楽部。部長の松橋未来さん(17)は「順延で不安もあったと思う。夏は光星らしい、粘り強く明るいプレーをもっと見せてほしい」と今後の活躍を願った。
 硬式野球部で生徒会長の正岡龍之助さん(17)は「まだまだ打線は眠っている。今度は爆発してほしい」と、雪辱に燃えるナインの奮起に期待した。(桑田友人)